

2021/1/23

(うとQ世話し「経済」と「経営」の混同混乱)

言葉の成り立ちを調べてみると結構面白いです。

例えば

「経済」と「経営」

既にこの場で何度も書きましたが「経済」の出自は「経世済民」です。

即ち

「世を経（おさめ）民を済（すくう）」もの。

一方「経営」は、対象が「世」ではなく「組織（体）」と一段狭く、行いは「済（すくう）」ではなく「営む」で「経（組織運）営」です。

イメージとしては前者が、丘の上から釜戸の煙が立ちのぼるのが少ないのを見て民を憂えた古王の「統治（ガバナンス）」であるのに対し、後者は、営利、非営利を問わず「一企業体の、それこそ経営、営業、生産活動」を連想すると分かり易いかと思います。

そこで、かねてから自分の抱いていた疑問や違和感の正体、つまり

「元々経済は経世済民（世を経（おさめ）民を済（すくう））物であった筈が、どうして最近では金銭の偏りから格差、不平等、対立を生む物の代名詞になってしまっているのか？」にありましたが、冒頭の二つの単語「経済」と「経営」を比較対照し俯瞰してみると、ある仮説浮び上がってきました。

曰く

「経営（一部に有利な組織運営）」が「経済（国民の幸福を願う目的の統治）」を呑込んで、最優先され、実態はそうであるのに、その「経営優先の事実」を隠しているのか、将又気づいていないだけなのかは分かりませんが、未だに「経世済民である経済と混同したまま間違っ

て使っている」のではないだろうか。

だから一部に富が集中し、多くの民は貧しいままなのではなかろうか？という仮説です。

もっと平たく言えば「特定企業」がボーダーレスで「国家国民」を上回って広がった「異形のグローバリゼーション」

或いは「生産消費（国民生活の水準決定源）」の実態を上回って実感なく一人歩きし、高騰を続ける「株価（個別企業の経営評価結果）」

しかも中銀が前者（国民生活の生産消費）の活性化目的で金融緩和すればするほど後者（一部特定企業）にお金集中し、返って富の偏在を作り出している真逆の結果も、これまた経営と経済を混同したまま、経済の蘇生に役立っているのだと誤解している事が原因なのではなかろうか？ 又は「経営」優先が経世済民の「経済」を歪めてしまったのでは」と思い始めました。

「経済」も「経営」もその指標が「お金」だとすると「お金自体」には罪はなく、その「人による運用」にこそ問題がありそうな事も併せて感じ始めました。

であるなら弊社としては従業員を食べさせる為のお金儲けにどういった前向きな意味を持

たせて経営するのか？」

が問題になってきます。

そこで思い当たったのが、現時点は赤字ですが、

「利益が出、規定上限を超えた折には、その利益の50%を寄付に回してはどうか？」

と。

だって社員が十分だと思える給与を超えて迄、必要以上に溜め込む必要を感じないからです。

その分を循環の為に世に流し出せば良いと思うからでございます。